

メリット

児童が英語に積極的になる！

普段の子どもたちは、授業以外で外国の人たちとあまり接点を持っていないかもしれません。留学生らを相手に最初は緊張して話せない子どもも、身体を使った活動を通じて、どんどん積極的にコミュニケーションをとれるようになり、表情も変わっていきます。これも屋外などで時間を共有するECの特長のひとつかもしれません。



バスの中での自己紹介などを通じて、徐々に雰囲気はよくなっていきます。

特色

さまざまな異文化に触れることができる

子どもたちは留学生から、さまざまな異文化を直接学ぶことができます。今回の取材では16カ国の留学生たちが参加し、自国の文化についてのクイズなどを行いました。日本と異なる文化に驚きの声をあげる子どもたちもいます。また、英語の発音も各国さまざまであることから、英語が完璧でなくてもコミュニケーションが取れることを学んでいきます。



お弁当などを食べる時間も大切なコミュニケーションの時間。



スタッフの役割

コミュニケーションをサポート

初めて参加する留学生の中には、日本人の子どもとどう接していいかわからず戸惑う人も。日本人スタッフはその初期段階で、留学生らと子どもの間のコミュニケーションを積極的にサポートします。運営上では、出身国のバックグラウンドもさまざまなので、たとえば集合時間をどのように設定するかなど、通常とは違った点にも注意を払う必要があります。



ECが始まる前に、留学生らに注意点を細かく説明します。

注意点

英語はどこまで必要？

このキャンプで留学生は、知っている片言の日本語をたくさん使用しています。なぜならこのキャンプでは、異文化を楽しむ理解することに重点を置いているからです。たしかに単語や文法を多くは知らない小学生にとって、英語だけで活動の内容をきちんと理解したり、指示された場所にきちんと移動するのは少し難しいかもしれません。



キャンプファイヤーで行うダンスの説明は、日本人スタッフと留学生らが協力で行います。

「多文化共生」を目指して

特集



いま大注目！

留学生の力を生かした イングリッシュ・キャンプに 行ってきました

撮影：市瀬真以、東京書籍英語編集部

ただでさえ楽しいキャンプを英語で行えば、英語嫌いなんていなくなる!? 平成32年度からの小学校英語の教科化で、俄然注目が集まるイングリッシュ・キャンプ(EC)。今回は日本にいる留学生の力を生かした「多文化共生」に力を入れる、宮城県復興支援センターの1泊2日のECを取材(小学校1年生～6年生対象)。スタッフが丸となって地域の力を活用する取り組みは、今後のEC運営におけるヒントにあふれていました。(主な撮影地：千葉県立君津亀山少年自然の家(6月18日～19日))



この日はとても暑く、水分補給を目的とした休憩を多く取りながらの活動となりました。

今回取材させていただいたのは、宮城県復興支援センターが企画・運営する「国際交流&イングリッシュ・キャンプ」。同センターは、2011年の東日本大震災後に、被災地である宮城県・福島県・岩手県への人道支援を目的に設立されました。同キャンプはそれら事業の一環として、被災児童の心のケア支援や国際理解活動の推進を目的とし、子どもの参加費の一部は、被災地の児童の同キャンプへの参加費用として還元されています。2015年度は70回開催し、小学生約7,200人が参加。同センター長の茂木秀樹さんは、「留学生らと英語を使いながら交流することで、さまざまな国のことを知ってもらいたい」とその思いを語ります。



同センターのスタッフ。左から酒井里菜さん、茂木さん、田嶋岳さん。

子どもの興味関心を 最大限に引き出そう!

2日目になると、子どもたちと留学生たちとのコミュニケーションはバッチリ。キャンプの思い出を胸に、帰宅してから海外への関心を持ち続けられるような構成になっています。

イングリッシュ・ キャンプ 2日目

4 11:30~ 写真 撮影会



貴重な出会いを忘れないために、留学生らと一緒に記念撮影。キャンプの始まりには見られなかった子どもたちの笑顔があらわれます。

5 13:00~

留学生たちからの メッセージ



昼食を食べた後、卒業証書に留学生たちからそれぞれの国の言葉でメッセージをもらいます。たとえすぐに読めなくても、子どもたちには一生の思い出になるはずです。

3 10:15~ イングリッシュ パイレーツゲーム



大きな袋の船に乗って、海賊のところまで逃げ! 留学生たちとじゃんけんをするなど、グループごとに競争します。

6 14:00~ お別れ会



最後に子どもたちから感謝の気持ちを込めて、留学生たちにハグのプレゼント。キャンプが終わってしまうのがいやで、泣き出してしまう子どももいます。バスで集合場所に戻ったら、ハイタッチで留学生たちとお別れです。



ジャックさん(台湾出身) 日本の子どもたちは、世界のことをあまり意識しておらず、他の国の子どもたちと比べると、すぐにあきらめてしまう傾向があるような気がします。キャンプを通じて、異文化を理解するとともに、あきらめない気持ちを身に付けてくれたらと思っています。

編集部視点から

「楽しいだけのキャンプ」にしないために

今回参加した外国人は主に留学生ですが、そのほかにも会社員などさまざまな人。現在は日本に住んでいる外国人も多いので、小学校でECを行うときに、それらの方々の力を活用して行うことも可能かもしれません。一方で大事なのは、「子どもたちに何を学ばせるのか」という視点かもしれません。アクティビティや場所の移動の説明

などを英語だけで理解させるのは、かなりの困難を伴いますし、日本人スタッフと留学生らが緊密に連携をしないと、日本語だけのキャンプと変わらない、「楽しいだけ」のキャンプで終わってしまう可能性もあります。子どもたちに身に付けさせたいことを明確にすることが、ECを成功に導く秘訣かもしれません。

6 15:00~

イングリッシュ 逃走中ゲーム

子どもたち2~3人のペアで手をつなぎ、鬼ごっこのように留学生たちを追いかけます。捕まったら「Where are you from?」などと尋ね、シールをもらいます。

7 17:00~ 留学生と バーベキュー



キャンプといったらこれでしょう? みんなで焼肉をモグモグ。最後は、マシュマロでしめます。



1 7:20~ 朝の会とダンス



今日のスケジュールの説明などをした後、「Head, Shoulders, Knees and Toes」でウォーミングアップ。

2 9:00~

「世界おもしろO× ゲーム②」と表彰式

昨日に続いて「世界おもしろO×ゲーム」をした後は、グループごとに集めたシールを集計した結果を発表し、子どもたちに巨大なお菓子をプレゼント。

9 21:00~ 国際交流ワークショップ 「世界を知ろう」



子どもたちが留学生に海外の小学校などについて質問します。「制服はあるの?」「放課後は何をしているの?」。子どもたちは寝る直前まで興味津々。

8 18:30~ キャンプファイヤー



火をつける前に、司会者はみんなの夢を聞いてまわり、それぞれが自分の夢を叫びながらの感動的な点火です。その後は、バーベキューの前に習ったダンスを踊ります。キャンプファイヤーの後は、みんなで花火をしたり、肝試しをしたりするなどの定番メニュー。肝試しでは、施設周辺の小路に、留学生たちが潜んでいます。

5 13:25~ 「世界おもしろO× ゲーム①」



この日は暑かったため、体育館に移動して、世界各国の文化を紹介するO×ゲームをしました(p.8参照)。正解したら、シールをもらいます。



昼食をはさんで、事前に書いてあった10枚のネームカードを英語で挨拶しながら交換します。留学生だけでなく、子どもたちどうしでもご挨拶。このあたりから子どもたちの緊張もほぐれてきます。

1 8:15~ はじめまして!



ドキドキしながら、留学生たちと初対面。留学生たちがナビゲートした後、子どもは色分けされたビブスを身に付けます。

2 9:00~ バスの中で

バスの中では留学生らが自己紹介。「My name is ~.」「My favorite food is ~.」「Nice to meet you.」などを導入するほか、英語のじゃんけんなども。子どもたちからの質問タイムもあります。

3 11:00~

開会式

宿泊場所に到着した後の開会式では、16カ国の留学生たちが勢揃いして、挨拶をします。午後のネームカード交換会の見本を見せたり、今回のキャンプに参加する目標も発表し合いました。

4 12:45~

ネームカード交換会



イングリッシュ・ キャンプ 1日目

緊張をほぐし、
学びのスイッチを入れる!
さまざまな国から来た留学生たちといきなり仲良くなれる子どもは少ないもの。最初の段階でスタッフが積極的に関与すれば、すぐに自分たちからコミュニケーションを取るようになります。



全体を統率したのは船田 究さん。EC歴は200回以上。子どもも日本人スタッフも楽しめるキャンプを目指しているとのこと。ちなみに、かぶっているのは「かつら」です。